

PRESS RELEASE

新国立劇場 2025/2026シーズン 演劇

日韓国交正常化60周年記念公演

焼肉ドラゴン



令和7年度（第80回）文化庁芸術祭主催公演

鄭 義信が日本の戦後史の影を描いた傑作が10月に9年ぶりの待望の再演
可笑しくも哀しい家族の絆の物語が初演オリジナルキャストも交えて、4度目の上演！
韓国公演・全国公演を経て、12月は新国立劇場 中劇場での凱旋公演も決定！



2011 年上演より 撮影：谷古宇正彦



（上段 左から）千葉哲也、村川絵梨、智順、松永玲子
（下段 左から）イ・ヨンソク、コ・スヒ、パク・スヨン、キム・ムンシク



作・演出
鄭 義信



芸術監督
小川絵梨子

2025年10月7日(火)～27日(月) 新国立劇場 小劇場
2025年12月19日(金)～21日(日) 新国立劇場 中劇場<凱旋公演>

【写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ】

新国立劇場 制作部演劇 広報担当 杉田亜樹

TEL: 03-5352-5738 FAX: 03-5352-5737

E-mail: sugita_a8863@nntt.jac.go.jp

〒151-0071 東京都渋谷区本町 1-1-1



新国立劇場

NEW
NATIONAL
THEATRE
TOKYO

大阪・関西万博開催の 2025 年—— 日韓両国の言葉がエネルギーに飛び交う、あの焼肉店。 愛しい家族と仲間たちが帰ってくる！

2025 年、日韓国交正常化 60 周年を迎えることを記念し、鄭 義信が日本の戦後史の影を描いた日韓合同公演『焼肉ドラゴン』を上演いたします。

本作は、2008 年に新国立劇場が芸術の殿堂（ソウル・アーツ・センター）とのコラボレーション企画として、鄭 義信に書き下ろしを依頼し制作されました。2002 年、2005 年上演の『その河をこえて、五月』（平田オリザ・金 明和 作／李 炳熹・平田オリザ 演出）に続く、同劇場との 2 度目のコラボレーション企画となります。

1970 年前後、高度経済成長と大阪万博に沸く関西の地方都市。そこで慎ましくも懸命に生きる在日コリアン一家と、彼らが営む焼肉店「焼肉ドラゴン」に集う人々の人間模様を、生き生きと描き出した本作。2008 年の初演では、開幕直後から口コミで大きな評判を呼び、東京・ソウル公演では連日スタンディングオベーションを巻き起こすなど、観客から熱狂的な支持を受けました。その年の日韓両国で数々の演劇賞を受賞し、2018 年には鄭 義信自身がメガホンを取り映画化もされました。

日韓の過去、現在、そして未来を、音楽を交えながら、おかしくも哀しく切なく描くこの物語は、2008 年、2011 年、2016 年に続き、2025 年に 4 度目の上演を果たします。

今回の上演では、まず 10 月に新国立劇場 小劇場から幕を開けます。その後、11 月に芸術の殿堂での韓国公演、そして福岡、富山での全国公演を経て、12 月には満を持して新国立劇場へ凱旋します。しかも、凱旋公演の会場は、なんと中劇場！ 初演から 17 年 を経て、新たな歴史を刻みます。

出演者も、これまでの上演をご覧になっている方には嬉しいサプライズが待っています。

2008 年初演時のオリジナルキャストである、千葉哲也、コ・スヒ、パク・スヨン、キム・ムンシクが再びカムバック。2011 年の再演以来、14 年ぶりにそれぞれ同役を演じます。

また、2016 年より続投する櫻井章喜、またこれまで三度の上演すべてに出演し、映画版にも出演した朴 勝哲も再び結集します。

さらに、『焼肉ドラゴン』初参加のキャストには、村川絵梨、智順、石原由宇、そして松永玲子。いずれも鄭 義信作品に出演歴があり、彼が信頼を置く俳優の面々が揃いました。さらに韓国太鼓（チャング）演奏家の崔 在哲も、作品に新たな彩りを加えます。在日コリアン一家の一人息子・時生役には、公募オーディションで選ばれた北野秀気が務めます。

そして、韓国キャストも新たな顔ぶれも加わりました。「焼肉ドラゴン」の店主・金 龍吉には、『ナビレラ』『マイ・ディア・ミスター』など日本でも人気の高いドラマにも出演している、イ・ヨンソク。そして三女・美花にはコ・スヒが設立した劇団 国道 58 号のメンバーでもあるチョン・スヨンが担います。

1970 年の大阪万博のテーマ「人類の進歩と調和」—— 55 年前、未来へと託されたこの願いは、果たして今、実現したといえるのでしょうか？ 奇しくも 2025 年は大阪・関西万博開催の年でもあります。鄭 義信が掲げる「記録する演劇」としての『焼肉ドラゴン』が、お客様一人ひとりが過去と真摯に向き合い、未来を見つめ直すきっかけとなることを願っています。どうぞご期待ください。

あらすじ

万国博覧会が催された 1970（昭和 45）年、関西地方都市。高度経済成長に浮かれる時代の片隅で、焼肉屋「焼肉ドラゴン」の赤提灯が今夜も灯る。

店主・金 龍吉は、太平洋戦争で左腕を失ったが、それを苦にするふうでもなく淡々と生きている。

家族は、先妻との間にもうけた二人の娘・静花と梨花、後妻・英順とその連れ子・美花、そして、英順との間に授かった一人息子の時生……ちよっとちぐはぐな家族と、滑稽な客たちで、今夜も「焼肉ドラゴン」は賑々しい。ささいなことで泣いたり、いがみあったり、笑いあったり……。

そんな中、「焼肉ドラゴン」にも、しだいに時代の波が押し寄せてくる。

配役(台本順)

役名	役どころ	演者
金 龍吉(キム・ヨンギル)	「焼肉ドラゴン」店主(56 歳)	イ・ヨンソク
高 英順(コ・ヨンスン)	龍吉の妻(42 歳)	コ・スヒ
金 静花(きん・しずか)	長女(35 歳)	智 順
金 梨花(きん・りか)	次女(33 歳)	村川絵梨
金 美花(きん・みか)	三女(24 歳)	チョン・スヨン
金 時生(きん・ときお)	長男(15 歳)	北野秀気
清本(李) 哲男(きよもと(り)てつお)	梨花の夫(40 歳)	千葉哲也
長谷川 豊(はせがわ・ゆたか)	クラブ支配人(35 歳)	石原由宇
尹 大樹(ユン・テス)	静花の婚約者(35 歳)	パク・スヨン
呉 信吉(ご・しんきち)	常連客(40 歳)	櫻井章喜
呉 日白(オ・イルベク)	信吉の親戚(38 歳)	キム・ムンシク
高原 美根子	長谷川の妻(53 歳)	松永玲子
高原 寿美子	美根子の妹・市役所職員(50 歳)	松永玲子
阿部 良樹	アコーディオン奏者(37 歳)	朴 勝哲
佐々木 健二	太鼓奏者(35 歳)	崔 在哲

『焼肉ドラゴン』の受賞記録

<日本国内>

第 43 回紀伊國屋演劇賞 個人賞(鄭 義信)

第 8 回朝日舞台芸術賞 グランプリ(『焼肉ドラゴン』)

第 12 回鶴屋南北戯曲賞(鄭 義信『焼肉ドラゴン』)

第 16 回読売演劇大賞 大賞・最優秀作品賞(『焼肉ドラゴン』)

同 優秀男優賞(申 哲振『焼肉ドラゴン』)

同 優秀女優賞(コ・スヒ『焼肉ドラゴン』)

同 優秀演出家賞(梁 正雄・鄭 義信『焼肉ドラゴン』)

第 59 回芸術選奨文部科学大臣賞(鄭 義信『焼肉ドラゴン』)

<韓国国内>

韓国演劇評論家協会の選ぶ 2008 年今年の演劇ベスト 3

韓国演劇協会が選ぶ 2008 年の演劇ベスト 7

スタッフプロフィール



【作・演出】 鄭 義信 CHONG Wishing

1993年に『ザ・寺山』で第38回岸田國士戯曲賞を受賞。映画にも進出し、同年『月はどっちに出ている』の脚本で、毎日映画コンクール脚本賞、キネマ旬報脚本賞などを受賞。98年には、『愛を乞うひと』でキネマ旬報脚本賞、日本アカデミー賞最優秀脚本賞、第一回菊島隆三賞、アジア太平洋映画祭最優秀脚本賞など数々の賞を受賞した。さらに平成13年度芸術祭大賞を受賞したドラマ『僕はあした十八になる』などテレビ・ラジオのシナリオでも活躍する一方、エッセイ集『アンドレアスの帽子』なども出版。2018年には自ら初監督を担い、『焼肉ドラゴン』を映画化した。

現在も、文学座、こんにゃく座ほかに戯曲を提供する傍ら、21年に劇団ヒトハダを旗揚げ。近年では23年に世界的ヒット映画『パラサイト 半地下の家族』を舞台化。25年は『泣くロミオと怒るジュリエット 2025』『白い輪、あるいは祈り』（翻案・演出）『線路は続くよどこまでも』『キネマの大地—さよならなんて、僕は言わない—』（作・演出）を手がける。新国立劇場では、『たとえば野に咲く花のように』『アジア温泉』の作、『焼肉ドラゴン』『パーマ屋スマイル』『赤道の下のマクベス』の作・演出を務め、初演の『焼肉ドラゴン』で、第16回読売演劇大賞優秀演出家賞、第12回鶴屋南北戯曲賞、第43回紀伊國屋演劇賞、第59回芸術選奨文部科学大臣賞を受賞。平成26年、紫綬褒章を受章。

また、日本から韓国への招聘公演だけでなく、10年『赤道の下のマクベス』、14年『歌うシャイロック』（『ベニスの商人』を音楽劇に翻案）、15年『コーカサスの白墨の輪』（唱劇形式に翻案）など、韓国芸術団体への書下ろしも多数ある。

作・演出 鄭 義信からのメッセージ

四度目の再演である。再演のたび、新しい航海に乗り出すような不安と怖れとときめきと……いろいろなものが混じり合った気持ちになる。大いに躊躇もする。前作を越えられるのかどうか……それでも、また船を漕ぎだすのは、「焼肉ドラゴン」のあの家族たちと再び会いたいという、強い気持ちがあるからだ。あの家族たち、あの愛しい家族たちとまた笑い、また泣き、苦しみ、怒り、そのすべてを共有したいと思うからだ。

四度目の再演で、おなじみの小劇場に加えて、初めて中劇場に家族たちが訪れます。どうぞあの家族たちに会いに来てください。

出演者プロフィール



千葉哲也 CHIBA Tetsuya ————— 清本(李)哲男

1987年、演劇企画集団「THE・ガジラ」の旗揚げに参加。俳優として舞台のほか、ドラマ・映画にも多数出演。第5回・第20回・第24回読売演劇大賞優秀男優賞・第39回紀伊國屋演劇賞個人賞など受賞多数。演出家として第14回・第16回、第24回読売演劇大賞優秀演出家賞受賞。新国立劇場では『反応工程』『怒りをこめてふり返れ』の演出を手掛けた。

【主な舞台】『紅鬼物語』『ハイライフ』『姉さんは、暖炉の上の、壺の中—My Sister Lives on the Mantelpiece』『路上7 インパーフェクト・デイズ』『連鎖街のひとびと』『マヌエラ』『狐晴明九尾狩』『男たちの中で』『BLUE／ORANGE』『サメと泳ぐ』など。新国立劇場では『デカログ』A『キネマの天地』『パーマ屋スマイル』『マニラ瑞穂記』『アジア温泉』『焼肉ドラゴン』『カエル』『胎内』『THE OTHERSIDE／線のむこう側』『キーン…或いは狂気と天才…』『新・雨月物語』『カストリ・エレジー』『虹を渡る女』『リア王』に出演。



村川絵梨 MURAKAWA Eri ————— 金 梨花

2002年にユニット「BOYSTYLE」として歌手デビュー。04年、映画「ロード88 出会い路、四国へ」で主演を務め、俳優業に進出。2005～2006年、連続テレビ小説『風のハルカ』ではヒロインを務めた。主な出演作に映画『金子差入店』、ドラマ『嘘解きレトリック』『うちの弁護士は手がかかる』、大河ドラマ『青天を衝け』、『ROOKIES』シリーズなどがある。

【主な舞台】『それでは登場して頂きましょう』『テラヤマ・キャバレー』『ドリームガールズ』『奇跡の人』『ザ・ドクター』『誰にも知られず死ぬ朝』『ドクター・ホフマンのサナトリウム～カフカ第4の長編～』『No.9 -不滅の旋律-』など。新国立劇場では『レオポルトシュタット』『白蟻の巣』『たとえば野に咲く花のように』に出演。



智順 Chisun ————— 金 静花

2005 年映画「パッチギ」にてスクリーンデビュー。これまでの主な出演作に、映画『大きな玉ねぎの下で』『高野豆腐店の春』『ロックンロール・ストリップ』『ごっこ』『無限の住人』、ドラマ『人事の人見』『東京サラダボウル』『相棒』『旅屋おかえり』『ジャンヌの裁き』など。

【主な舞台】『bitter』『some day』『ピクトグラム』『サンソン ルイ 16 世の首を刎ねた男』『五月、忘れ去られた庭の片隅に花が咲く』『アーモンド』『ジュリアス・シーザー』『セールスマンの死』『海のホタル』、新国立劇場では『アジア温泉』『昔の女』に出演。



櫻井章喜 SAKURAI Akiyoshi ————— 呉 信吉

文学座所属。1997 年『あ!? それが問題だ』で初舞台。以降、舞台を中心に、ドラマ、吹替え、CM など幅広く活動。劇団ヒトハダのメンバーでもある。

【主な舞台】『グッバイ、レーニン！』『Medicine メディシン』『ハムレット』『エウリディケ』『ロスマルスホルム』『ジョン王』『ヘンリー八世』『僕は歌う、青空とコーラと君のために』『蜘蛛女のキス』『雨』など。新国立劇場では『ピーター&ザ・スターキャッチャー』『リチャード二世』『ヘンリー五世』『焼肉ドラゴン』『テンペスト』『ピグマリオン』『サロメ』『透明人間の蒸気』に出演。



朴 勝哲 PARK Seungcheol ————— 阿部 良樹

桐朋学園大学音楽学部ピアノ専攻卒業。『兄おとうと』のピアノ演奏で第 11 回、『スリル・ミー』のピアノ演奏で第 26 回読売演劇大賞優秀スタッフ賞受賞。

【主な舞台】『泣くロミオと怒るジュリエット 2025』『太鼓たたいて笛ふいて』『てなもんや三文オペラ』『花よりタンゴ』『きらめく星座』『壁の中の妖精』など、新国立劇場では『パーマ屋スミレ』『焼肉ドラゴン』『アジア温泉』『東京裁判三部作』『夏の夜の夢』『母・肝っ玉とその子供たち』『箱根強羅ホテル』などに出演。



崔 在哲 CHOI Jaechol ————— 佐々木 健二

韓国太鼓演奏家。五穀豊穡を祈る韓国の民俗芸能「農楽」の囃子をもとに、伝統音楽と現代音楽の垣根を越えて活動の幅を広げている。「仙波清彦&カルガモーズ」「琴鼓'n管」「多民族芸能楽団 わたら」に所属。2009 年より日本と韓国の文化に触れる歩き旅「Chango Walk」を始め、東京から韓国、富士山詣、三陸沿岸、佐渡ヶ島一周などを歩いた。これまでの主な出演に「三陸国際芸術祭」「天籟能の会(国立能楽堂)」などがある。



石原由宇 ISHIHARA Yu ————— 長谷川 豊

2006 年に円演劇研究所に入所。2008 年、演劇集団円 会員昇格。これまでの主な出演に、映画『七つの会議』『空飛ぶタイヤ』、ドラマ『つまらない住宅地のすべての家』、ラジオドラマ『謙信サマは今日も気まぐれ』などがある。

【主な舞台】『破門フェデリコ〜くたばれ！ 十字軍〜』『あらしのよるに-ひみつのあいことば-』『グレンギャリー・グレンロス』『ヨーコさん』『ぼくは人魚』『ペリクリーズ』『イヌの仇討』『君子無朋』『獣唄』など。



北野秀気 KITANO Hideki

金 時生

大阪芸術大学 舞台芸術学科ミュージカルコース卒業。舞台作品のほか、ドラマ・映画など映像作品へも活動の幅を広げている。これまでの主な出演に、映画『おいしくて泣くとき』『花まんま』『ミッシング・チャイルド・ビデオテープ』、ドラマ『花のれん』『虎に翼』『新宿野戦病院』『あきない世傳 金と銀シリーズ』、などがある。

【主な舞台】『熱海殺人事件 バトルロイヤル50's』『夜曲～ノクターン～』『新・幕末純情伝』など。



松永玲子 MATSUNAGA Reiko

高原 美根子／高原 寿美子

ナイロン100℃所属。舞台やドラマ、映画、ナレーション、コラム執筆など幅広く活動。主な出演に映画『35年目のラブレター』『ピンクとグレー』、ドラマ『バレー男子！』『未来の私にブッカマされる!?』『祈りのカルテ』、コラム『えんぶTOWN～今夜もネットショッピング～』など。

【主な舞台】『先生の背中』『なんかの味』『片づきたい女たち』『江戸時代の思い出』『眠くなっちゃった』『Don't freak out』『音楽劇ブンとフン』『薮原検校』『イモンドの勝負』『グリークス』『修道女たち』『百年の秘密』『夜、ナク、鳥』『大悪名』『御宿かわせみ』『人民の敵』『カラフト伯父さん』『ブエノスアイレス午前零時』など。新国立劇場では『オレスティア』に出演。



イ・ヨンソク LEE Young Suck

金 龍吉

千代田工芸芸術専門学校卒業。1988年、劇団銀杏劇場を設立し、現在代表として在職する一方、演劇、映画、放送など様々な分野で活発に活動している。これまでの主な出演に、映画『デッドマン』『きらびやかな私の復讐』『キルボックス』『熱い血』『パイプライン』『資産魚譜』、ドラマ『隠し味にはロマンス』『ナビレラ』『マイ・ディア・ミスター』『刑務所のルールブック』など。1994年・2017年韓国演劇俳優協会選定今年の俳優、2014年・2017年ソウル演劇人大賞男性演技賞、2016年第15回ミジャンセン映画祭審査員特別賞、ほか受賞多数。

【主な舞台】『趙氏孤児』『箱』『鳥致院ヘムニ』『青い日に』『ゴドーを待ちながら』『年の演技が目に入る時』『百年、風の仲間たち』『ゴーゴンの贈り物』『ダブリンキャロル』など。



コ・スヒ KOH Soo Hee

高 英順

1998年、劇団コルモッキルに入団し、1999年『青春礼賛』でデビュー。2023年に退団後、自身の劇団58号国道を設立、演出も務める。これまでの主な出演に、映画『幼い依頼人』『ミス・ワイフ』『タチャー神の手』『サニー 永遠の仲間たち』『親切なクムジャさん』『グエムルー漢江の怪物』『ほえる犬は噛まない』、ドラマ『魅惑の人』『幻の王女チャミョンゴ』など。2007年東亜演劇賞演技賞、2017年ステージオーディエンスチョイスアワード最高の演劇俳優助演女優賞、2024年第33回大韓民国新春文芸フェスティバル優秀演技賞および第24回二人芝居フェスティバルスペシャルアーティスト賞受賞。日本では、『焼肉ドラゴン』（2008年初演）での演技で第16回読売演劇大賞優秀女優賞を受賞した。

【主な舞台】『ヘッダ・ガブラー』『豚小屋』『屋上畑の唐辛子はなぜ』『すべての軍人は可哀想だ』『ロミオとジュリエット』『呉將軍の足の爪』『エレガンス』『キョンスギ、キョンスギのお父さん』『交代孫孫』など。新国立劇場では、『焼肉ドラゴン』（2008年、2011年）に出演。



パク・スヨン PARK Su Young ————— 尹 大樹

1990年、釜山ガマゴル劇場に入団し、1991年『オグ』でデビュー。これまでの主な出演に、映画『ワンドゥギ』『映画は映画だ』、ドラマ『君は天国でも美しい』『ペーパー・ハウス・コリア』『私の解放日誌』『マイ・ディア・ミスター』など、映像でも活躍中。2007年ヒソ演劇賞-期待される若い演劇人賞受賞。

【主な舞台】『私の事』『青い船の物語』『賃借人』『白桜桃』『二十世紀少年少女唱歌集』『旅行』『海と日傘』『出撃』『オグ』など。新国立劇場では、『焼肉ドラゴン』（2008年、2011年）に出演。



キム・ムンシク KIM Mun Sik ————— 吳 日白

1998年、劇団小さな神話に入団。舞台を中心に活躍しており、近年はドラマ『ヒップタッチの女王』など映像作品にも活動の幅を広げている。

【主な舞台】『鳥致院ヘムニ』『僕に会いに来てください』『春の歌は海に流れて』『ぼくに炎の戦車を』『青い船の物語』『家庭料理定食を美味しく食べる方法』『悔しい女』『わたしはうんこです』など。新国立劇場では、『アジア温泉』『焼肉ドラゴン』（2008年、2011年）に出演。



チョン・スヨン JUNG Su Yeon ————— 金 美花

清州大学演劇映画学科で演劇を専攻。卒業後、短編映画やインディペンデント映画出演からスタートし、現在は映画、演劇、ミュージカルなど活動の幅を広げている。特技は、韓国の伝統芸能パンソリ。2023年、劇団58号国道に入団。

【主な舞台】『海女ヨンシン』『雨と猫といくつかの嘘』『ただできた、愛の有効期間』『変身』『イ・ソングョン-記憶のかけら』『名誉、消えない炎』『マラサード』『キノ、そして清州』など。

公演概要

日韓国交正常化 60 周年記念公演『焼肉ドラゴン』

＜日本語・韓国語上演／日本語字幕付＞

【作・演出】鄭 義信

【翻訳】川原賢柱

【美術】島 次郎

【照明】勝柴次朗

【音楽】久米大作

【音響】福澤裕之

【衣裳】前田文子

【ヘアメイク】川端富生

【擬闘】加藤 学

【演出助手】城田美樹

【舞台監督】北条 孝 大垣敏朗

【芸術監督】小川絵梨子

【主催】文化庁／新国立劇場

【協力】芸術の殿堂（ソウル・アーツ・センター）

【後援】駐日韓国大使館 韓国文化院



【キャスト】 千葉哲也、村川絵梨、智順、櫻井章喜、朴 勝哲、崔 在哲、石原由宇、北野秀気、松永玲子
イ・ヨンソク、コ・スヒ、パク・スヨン、キム・ムンシク、チョン・スヨン

【公演日程／会場】

2025年10月7日(火)～27日(月) 新国立劇場 小劇場

2025年12月19日(金)～21日(日) 新国立劇場 中劇場＜凱旋公演＞

【料金(税込)】

＜小劇場＞A席 8,800円／B席 3,300円／Z席(当日)1,650円

＜中劇場＞S席 8,800円／A席 6,600円／B席 3,300円／Z席(当日)1,650円

【一般発売】

＜小劇場＞2025年8月10日(日)10:00～

＜中劇場＞2025年10月12日(日)10:00～

【チケット申し込み・お問い合わせ】

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <https://nntt.pia.jp/>

* **Z席1,650円** Z席は、公演当日朝10:00から、新国立劇場Webボックスオフィスおよびセブン-イレブンの端末操作により全席先着販売いたします。
先着販売後、残席がある場合は、公演当日朝11:00からボックスオフィス窓口でも販売いたします。※電話予約不可。

* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約可。

* **各種割引** 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障がい者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(小中学生20%)、アトレ会員割引(5～10%)など各種の割引サービスをご用意しています。

【新国立シアタートーク】

日時:10月15日(水)終演後

会場:新国立劇場 小劇場

出演:鄭 義信、イ・ヨンソク、コ・スヒ、千葉哲也、村川絵梨

司会:中井美穂

入場方法:本公演チケット(いずれの日程でも可)をご提示ください。

韓国公演

2025年11月14日(金)～23日(日)

芸術の殿堂(ソウル・アーツ・センター) CJトウォル劇場

全国公演

【福岡公演】 J:COM北九州芸術劇場 中劇場

2025年12月6日(土)13:00開演、7日(日)13:00開演

【富山公演】 オーバード・ホール 中ホール

2025年12月12日(金)18:30開演、13日(土)13:00開演

目や耳に障がいのあるお客様への観劇サポート

本公演では 10 月の小劇場公演で、視覚・聴覚に障がいのあるお客さまへ、観劇サポートをご提供いたします。

※サポートは無料。要予約、定員あり。

2025 年 8 月 10 日(日)10:00 より予約開始

目に障がいのあるお客様への 開演前舞台説明会 & リアルタイム音声ガイド	① 10 月 13 日(月・祝)	13:00 開演
	② 10 月 16 日(火)	13:00 開演
耳に障がいのあるお客様への ポータブル字幕機の貸し出し	① 10 月 23 日(木)	13:00 開演
	② 10 月 24 日(金)	18:30 開演



劇場前の表示



受付には、手話通訳者と要約筆者も



開演前舞台説明会の様子



舞台模型に触って、形状を体感している様子